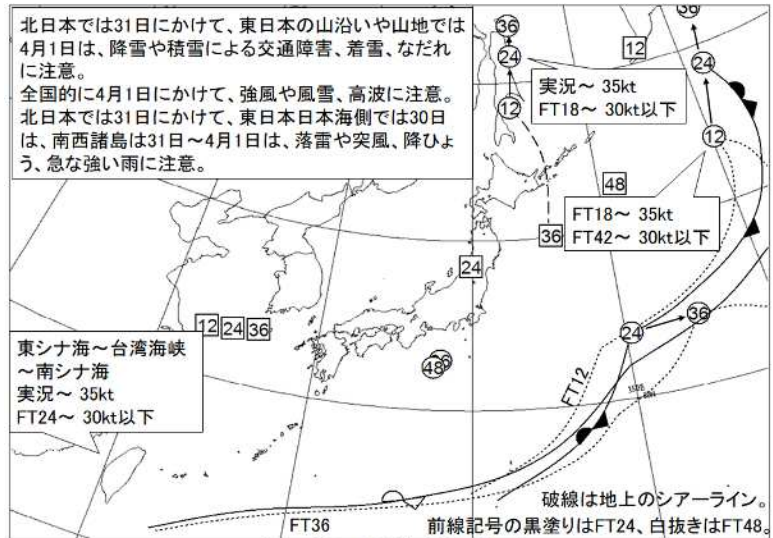


**1. 実況上の着目点**

- ① 500hPa 5220m付近のトラフに対応して宗谷海峡付近を北東進する低気圧からシアーラインが北日本にのびる。850hPaで-6℃以下の寒気が西日本～東北地方に移流、北日本では10cm前後、東～西日本日本海側の山地では1時間に3cm前後の3時間降雪量を観測。
- ② 日本の東を北東進する低気圧から前線が日本の南にのびている。
- ③ 東シナ海を東に移動する高気圧の南縁で、500hPa 5760m付近の強風軸に対応する下層の傾圧帯が華南～南西諸島～沖縄の南にのびている。南西諸島では1時間に5mm前後の雨を解析。



主要じょう乱解説図

- ④ ①②の低気圧及び前線と③の高気圧との間や、③の高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。

**2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点**

- ① 30日は、1項①の低気圧がサハリンに進み、シアーラインが千島近海に進む。北日本と東日本日本海側では、大気の状態が不安定となる所があり、北日本では降雪が強まる所がある。落雷や突風、降ひょう、降雪や積雪による交通障害、着雪、なだれに注意。
- ② 1項②の低気圧は、31日にかけて閉塞しながらカムチャツカの東へ北上して前線から切り離される。また、31日朝までに日本の東の前線上に発生する低気圧が、4月1日にかけてアリューシャンの南に進み、この低気圧からのびる前線が、日本の南を通って沖縄の南に停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の高気圧は、31日にかけて東シナ海をゆっくり東に移動して次第に不明瞭になる。また、31日朝までに東日本日本海側に顕在化する高気圧が、4月1日にかけて千島の東に移動する。
- ④ 500hPa 5640m付近の正渦度移流に対応して、31日夜までに東海道沖に発生する低気圧が4月1日にかけて停滞。この低気圧の北側で、850hPaで-3℃の寒気が東日本に移流。また、低気圧に向かって2項③の千島の東に移動する高気圧の南縁を回る湿った空気が流れ込み、東日本の山沿いや山地では4月1日は、降雪の強まる所がある。降雪や積雪による交通障害や着雪に注意。
- ⑤ 2項①、②、④の低気圧や前線と、③の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。全国的に4月1日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**4. 防災関連事項 [量的予報等]**

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。③ 波浪(明日まで)：沖縄4、北海道・東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿・中国・奄美3m。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。